

今月のことば

煩惱を
やめることは
できぬけれど
煩惱と
知ることは
できる

(仲野良俊)

煩惱とは、心身を煩わし悩ます心のはたらきのこと、煩惱の代表として、三毒の煩惱が説かれます。三毒の煩惱とは、瞋恚・愚痴・貪欲の三つです。

簡単に言えば、貪欲とは貪りの心、瞋恚とは怒りの心、愚痴とは真実が見えていない愚かな心のことですが、これらを、自己中心の心という視点から、受け止めることが大切です。

私たちは、何を貪り求めるかと言うと、自分にとって都合のいいものであり、何に怒るかと言うと、自分にとって都合の悪いものです。つまり、自分にとって都合のいいものを貪り求める心を貪欲と言い、自分にとって都合の悪いものに怒る心を瞋恚と言い、そのように、自己中心にしか物事を見ることが出来ない愚かさを愚痴と言うのです。私たちの生活は全て、この三毒の煩惱に振り回されている、と言えるのではないのでしょうか。ところが、私たちは、それで普通だと思っています。例えば、好きな人(自分にとって都合のいい人)を大切にし、嫌いな人(自分にとって都合の悪い人)に冷たくするとうように、周りの人を分け隔てして傷つけているにも関わらず、それで当然だと思っっています。しかし、仏さまから見たら、それはとても痛ましい状態なのです。

仏さまのみ教えを聞かせていただく中で、煩惱と知らされたからといって、煩惱を無くすことが出来るわけではありません。しかし、煩惱を煩惱と知らされるのが、とても大切なことなのです。

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき